

6/19(土) まど！倫理です。天候気候を受け入れる...とは、全ての事も受け入れる。気持が安らぐ事は、

# 幸也雄 - 赤鳥

2021. 6. 19 ~ 6. 25

## 今週の 倫理

6月のテーマ | 天候気候を受け入れる

# 1234号

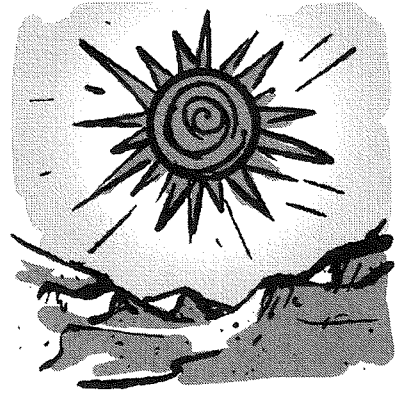
日本列島の多くは、夏は暑く、冬は寒い。春は暖かく、秋は湿度が下がり空気が澄み渡るといふ、四季折々の気候と豊かな自然に恵まれています。そのような環境下で生活をしている私たちは、日本ならではの自然観を持つて大自然と共存してきました。

農業を例にみると、日本は複雑な地形を持ち、世界でも有数の多雨地帯であることから、土地によって土壌の性質が異なります。そうした地形や気候を活かした農法による土地からは、多種多様な作物と主食である米の安定した供給が可能です。しかし、自然は厳しい一面も持ち合わせています。大雨や台風、大雪等は、丹精込めて育ててきた作物を台無しにしてしまうほどです。

豊かな反面、厳しい自然と共存していくため、私たちの祖先は、自分を取り巻く一切のものを「天からの授かりもの」として、神仏と崇め感謝してきました。そして、雨、風、暴風雨といった自然現象（天候・気候）は、神のあらわれ「天与のもの」と受け入れ、畏敬してきたのです。

小高い山があればそこに神社を建て、海が荒ればそこにも神社を建て、自然は人為を超えた現象と捉えた上で、大自然の中に「神さま」を宿らせ、崇拜し、豊作を祈り、祭事を執り行なってきました。これらは、日本人が持つ自然観といえるでしょう。

しかし、現代は、そういった意識が希薄化しています。どうこう思っても仕方がない自然現象に対して恐れや憂えを抱き、その起きている現象に対して腹を立て、嫌う



## 自然と共存して 生活していく大切さ

心を持つことさえあります。世の中には思い通りにならないことが多々あります。その中でも、自然現象ほどどうすることもできないものはありません。更に、今日も明日も一分一秒も天候・気候から離れて生活することはできないのです。

＊

倫理運動の創始者 丸山敏雄は、この天候・気候に対する心構えとして、「**順応**」と「**畏親**」の二つを挙げています。

【**順応**】とは、暑さも寒さも、雨も風も雪も、文字通り「天与」のものと受けとり、嫌がったり、心配したり、恐れたりせず、いつさい逆らわないことです。寒ければ暖をとって、雨の時には傘をさし、その時々自然に合わせ応じるのです。

【**畏親**】とは、大自然（天候・気候）はふとこころが深く、広い存在と敬い、畏れ、和やかな心で親しむことです。

この二つの心構えを持ち、天候・気候と向き合うことで、時には、自然を味方につけることもできるのです。

丸山敏雄は、豪雨に見舞われても「いい雨ですね。凄まじいとは、このことだ」と笑い、焼けつくような酷暑の日には「なんて男性的な暑さであることよ」と歓迎し、凍りつくような厳しい冷え込みも「引き締まった清々しさだ」と受け入れ、自然と一体となりました。

私たちも、日本人が培ってきた古くからの自然観に誇りを持って、大自然と共存することを継承していききたいものです。